

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成23年10月6日(2011.10.6)

【公表番号】特表2010-536759(P2010-536759A)

【公表日】平成22年12月2日(2010.12.2)

【年通号数】公開・登録公報2010-048

【出願番号】特願2010-521043(P2010-521043)

【国際特許分類】

A 6 1 K 36/02 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

A 6 1 K 47/18 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 25/00 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 13/08 (2006.01)

A 6 1 P 13/12 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/02 (2006.01)

A 6 1 P 19/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 35/80 Z

A 6 1 K 47/34

A 6 1 K 47/18

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 25/00

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 13/08

A 6 1 P 13/12

A 6 1 P 17/00

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 35/02

A 6 1 P 19/00

A 6 1 K 45/00

C 1 2 N 15/00 Z N A A

【手続補正書】

【提出日】平成23年8月10日(2011.8.10)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 9】

HALとPAL間の高い相同性のため、HAL及びPALの保護された領域は、HAL/PAL保護領域と

呼ばれる。この高い相同性により、ノストック パンクチフォルメ及びアナベナ バリアビリスのNCBIデータベースに一覧化されたタンパク質配列などの誤った表示がされた"PAL - HAL"タンパク質の潜在的な酵素活性について、NCBIのようなデータベースで不明瞭となることがある。したがって、PAL酵素の中には、誤った表示をされたHAL酵素がある。PAL及びHALの活性部位は非常に類似しているが、それらは、いくつかの主要な残基が異なると推測されている[Calabreseら, Biochemistry 43(36):1 1403-1 1416 (2004); Xiangら, (2002), 前述の箇所; Williamsら, (2005), 前述の箇所]。特にHALにおいて、シュードモナス プチダからのメチオニン383及びグルタミン酸415[配列番号: 6]は、すべてのHALにおいて高度に保護されているが、リジン及びグルタミンによってそれぞれ、常にこれまでに記載されたすべてのPAL(真核生物又は原核生物)で置換されている(図4)。そのため、"PAL - HAL"領域があり、かつ、リジン383及びグルタミン酸415との相同性を有するすべてのタンパク質は、PAL活性のあるタンパク質の配列特性を有すると言える。このような比較的新しいPALの特性[Williams, et al, (2005), 前述の箇所]は、HALからPALへいくつかの酵素を適切に分類させ、既存の遺伝子及びタンパク質のデータベースからいくつかの新規のPAL酵素を識別するのに利用することができた。